外観の良いブドウ「シャインマスカット」生産のための花穂整形・摘粒方法

「シャインマスカット」は大変食味の良い品種ですが、形の悪い花穂が多い・穂軸が曲がる・穂軸先端の着粒が悪い等の欠点があります。この特徴を踏まえ外観の良い房を作るためには、収穫時の穂軸長が10.5cm程度になるように花穂整形や摘粒時の穂軸長の調整を行い、１房45～50粒に摘粒します。

花穂先端部を利用する

・外観の良い房を生産するためには、花穂の先端を切除せずに整形します（図1）。

・着粒決定後に穂軸長を調整する際も（果房先端部の着粒数が少なかったり、形が悪かったりする場合を除き）、できるだけ房の先端部を利用すると外観の良い房になります。

整形前　　整形後

図１　花穂整形の様子

花穂整形４cm　正常　　花穂整形６cm　曲がり　　花穂整形７cm　花振い

図２　花穂整形の違いと果房（満開 15 日後頃）

開花始めの花穂整形は3.5～4cmに

・花穂は開花始めに3.5～4cmに整形すると、必要な穂軸の長さを確保できます（図2左）。

・花穂整形が長すぎると、穂軸の曲がり（図2中央）や花振い（図2右）が発生しやすくなります。

・満開15日後に穂軸長を9.5～10cmに整形すると、収穫時期の穂軸長を10.5cm程度にできます。

摘粒で外観を仕上げる

・一粒重15g以上、房重700g程度の「シャインマスカット」を生産する場合、収穫時の穂軸長が10.5cm程度で、45～50粒に摘粒すると、外観の良い房になります（図3）。

・支梗長が長い房の場合には、穂軸長を短めに調整します。

・支梗数は房によって差が大きいため、支梗数が少ない場合には、1支梗当たりの粒数を多くして房の粒数を確保します。

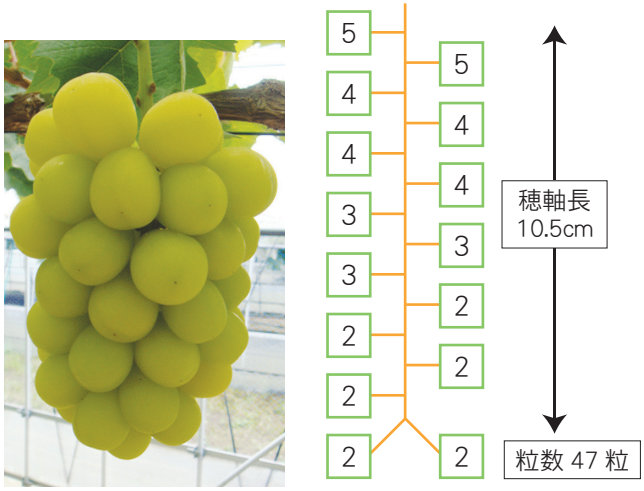

図３　理想的な房の形と各支梗の粒数